

## 大学図書館における「学生協働のマネジメント」に関するアンケート調査結果報告

### 【調査概要】

#### I. 調査項目

共通：

- (1) 学生協働の実施状況

学生協働実施館：

- (1) 実施内容
- (2) 開始年度
- (3) 参加学生数
- (4) 参加学生の募集方法
- (5) 職員数
- (6) 教員参加有無
- (7) 予算
- (8) 学生の育成
- (9) 今後取り組みたいこと
- (10) 課題意識

学生協働非実施館：

- (1) 今後の実施予定の有無
- (2) 実施する場合の形態
- (3) 課題意識

#### II. 調査方法

- Google フォームを用いた Web 回答方式（Web 回答不可の場合はメールでの回答）
- 「ISIL 管理台帳」に基づいた郵送葉書による回答依頼

#### III. 調査対象

対象：全国の国公立大学（大学院大学含む。短大を除く。ただし、大学と図書館を共有している場合は含まれる。）の図書館、図書室、分館、分室、資料室

送付数：1046 館

回答数：556 館（回答率：53.1%）

#### IV. 調査期間

平成 29 年 5 月 19 日～平成 29 年 6 月 30 日

#### V. その他

##### (ア) 学生協働の定義について

本調査では学生協働を以下の 3 つに区分した。

- ① 「業務サポート」・・・配架や装備、カウンター業務等
- ② 「利用促進・読書推進」・・・選書ツアーや展示、イベント企画運営、他大学交流等
- ③ 「学習支援」・・・レポート作成支援や履修相談、ICT サポート、ガイダンス等

##### (イ) クロス集計について

「日本の図書館：統計と名簿 2016」日本図書館協会，2017，CD-ROM 版」より以下の項目を使用し、本調査結果とのクロス集計を行った。なお、データがない場合は集計の対象外とした。

- ① 設置者種別
- ② 職員総計

## 【調査結果】

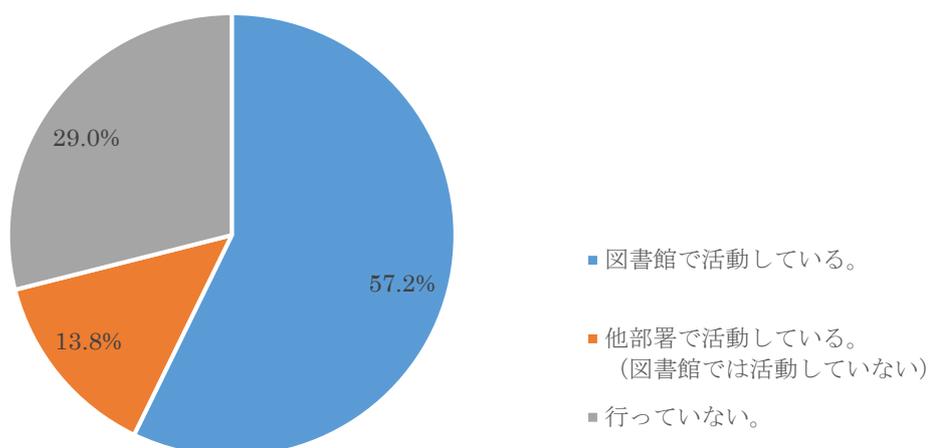
### 1. 共通

#### 1. 実施状況について

##### 1-1. 実施状況

学内での学生協働の実施状況を尋ねた。図書館以外の部署で行われているものを合わせると71%の大学で実施していた。図書館で学生協働（他部署との重複を含む）が行われている大学に限っても、全体の半数を超える57.2%であった。（図1-1）

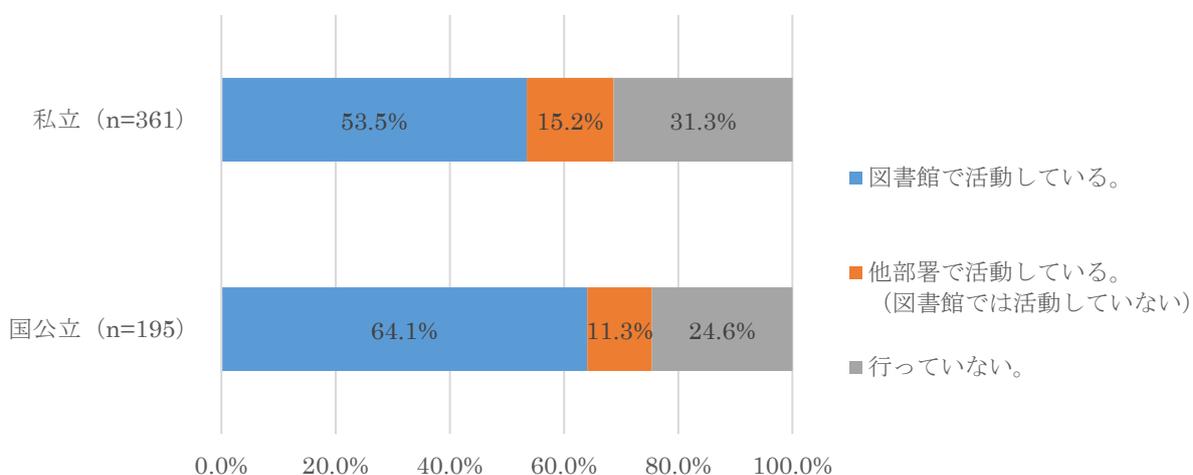
図1-1. 学生協働の実施状況(n=556)



##### 1-2. 国公立別の実施状況

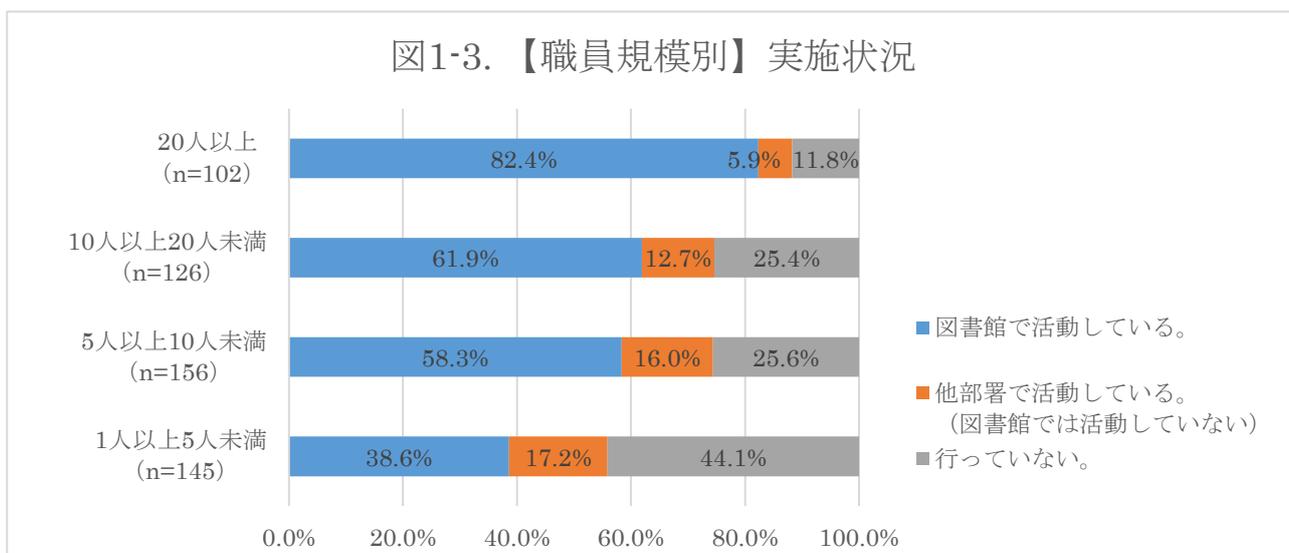
国公立別に実施状況を確認した。国公立大学の方が学生協働の実施率が高く、図書館での学生協働の実施率は国公立が64.1%、私立では53.5%であった。図書館以外の部署での活動を合わせると、国公立が75.4%、私立が68.7%であった。（図1-2）

図1-2. 【国公立別】実施状況



### 1-3. 「職員規模別」実施状況

図書館職員の人数規模別に実施状況を確認した。図書館職員が「20人以上」の大学では、図書館で学生協働の活動がある大学が82.4%、図書館を除く学内他部署のみで学生協働が行われている大学が5.9%で、合わせて88.3%であった。「10人以上20人未満」の大学では、図書館で学生協働の活動がある大学が61.9%、学内他部署のみで学生協働が行われている大学が12.7%で、合わせて74.6%であった。「5人以上10人未満」の大学では、図書館で学生協働の活動がある大学が58.3%、学内他部署のみで学生協働が行われている大学が16.0%で、合わせて74.3%であった。「5人未満」の大学では、図書館で学生協働の活動がある大学が38.6%、学内他部署のみで学生協働が行われている大学が17.2%で、合わせて55.8%であった。(図1-3)

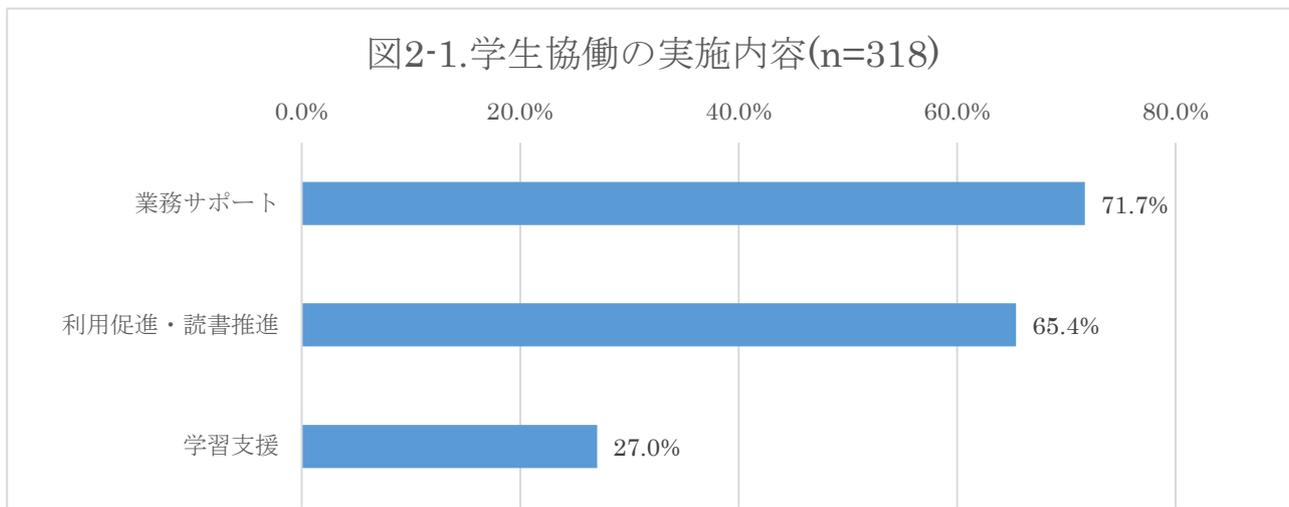


## II. 学生協働実施館

### 1. 実施内容について

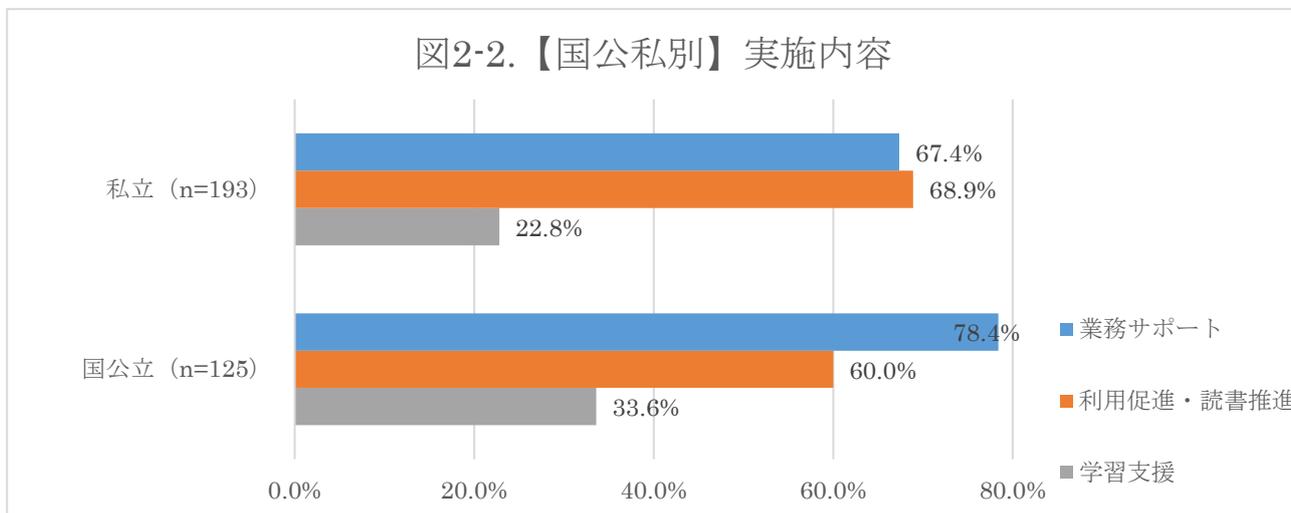
#### 1-1. 実施内容

図書館での学生協働の実施内容を「業務サポート」「利用促進・読書推進」「学習支援」の3つに区分し、それぞれの実施有無を尋ねた(複数回答可)。「業務サポート」が最も多く71.7%、次いで「利用促進・読書推進」が65.4%、「学習支援」が27.0%だった。(図2-1)



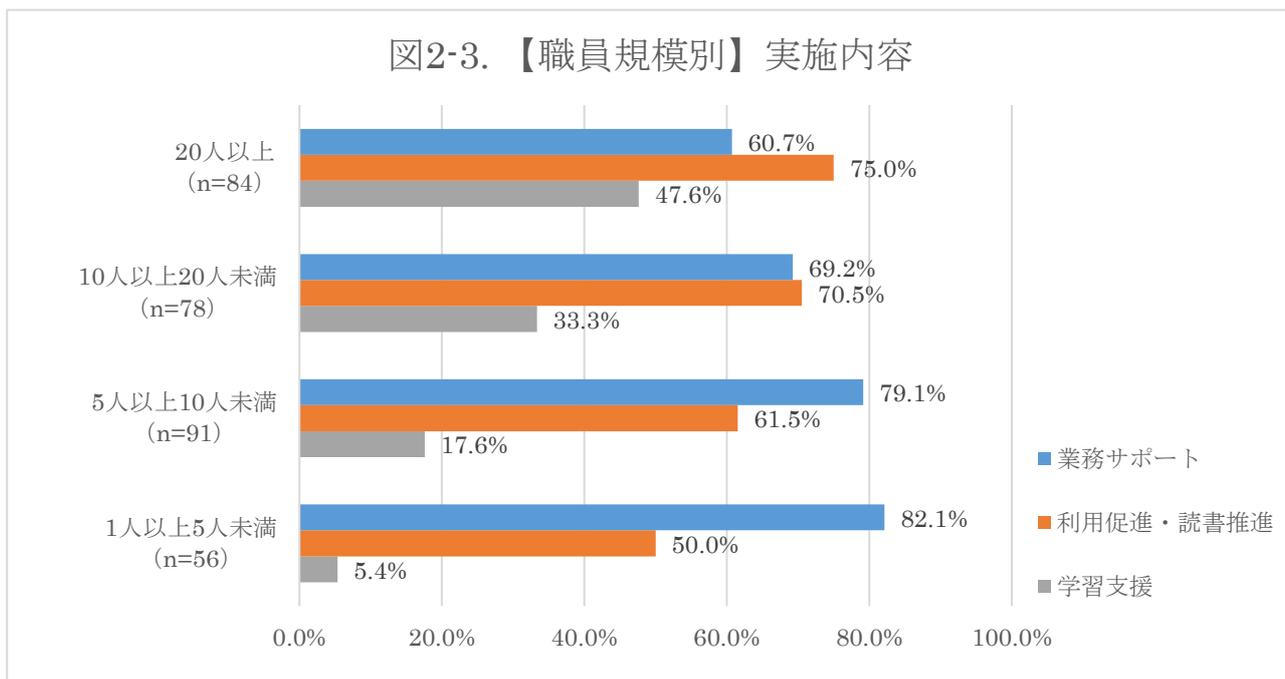
### 1-2. 国公立別実施内容

国公立別に実施内容を確認した。国公立では私立に比べて「業務サポート」と「学習支援」が多く、私立は国公立に比べて「利用促進・読書推進」が多かった。「業務サポート」は国公立で78.4%、私立で67.4%だった。「利用促進・読書推進」は国公立で60.0%、私立で68.9%だった。「学習支援」は国公立で33.6%、私立で22.8%だった。(図2-2)



### 1-3. 「職員規模別」実施内容

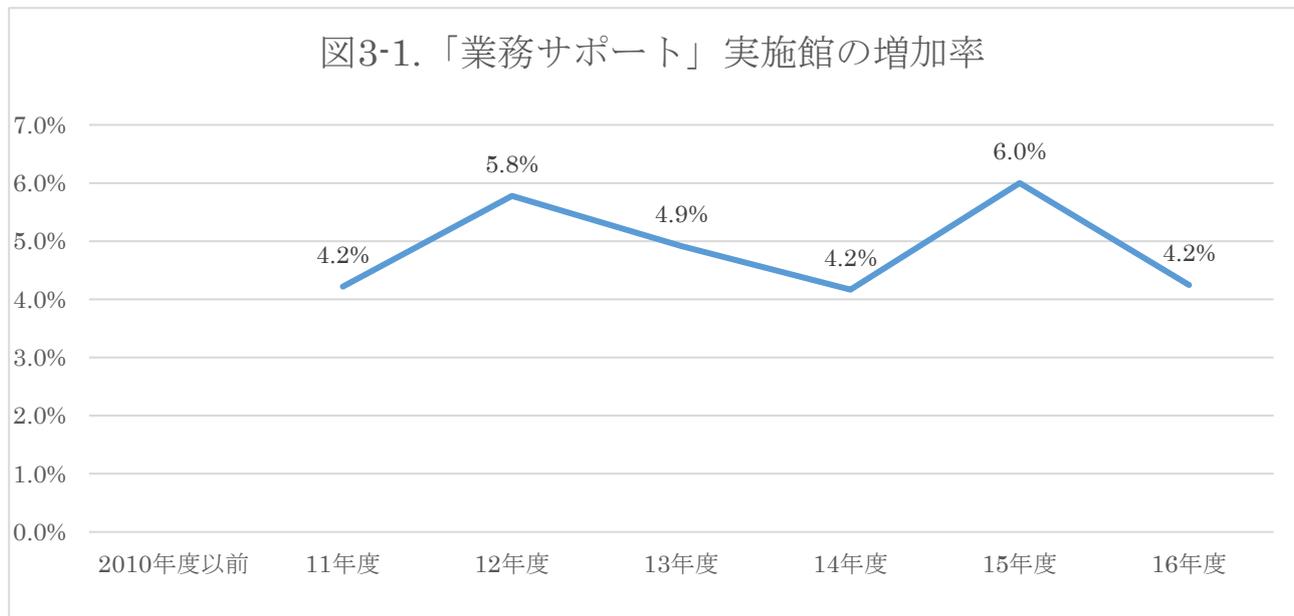
図書館職員の人数規模別に実施状況を確認した。図書館職員が「1人以上5人未満」の大学では「業務サポート」が82.1%、「利用促進・読書推進」が50.0%、「学習支援」が5.4%であった。「5人以上10人未満」の大学では「業務サポート」が79.1%、「利用促進・読書推進」が61.5%、「学習支援」が17.6%であった。「10人以上20人未満」の大学では、「業務サポート」が69.2%、「利用促進・読書推進」が70.5%、「学習支援」が33.3%であった。「20人以上」の大学では、「業務サポート」が60.7%、「利用促進・読書推進」が75.0%、「学習支援」が47.6%であった。(図2-3)



## 2. 「業務サポート」について

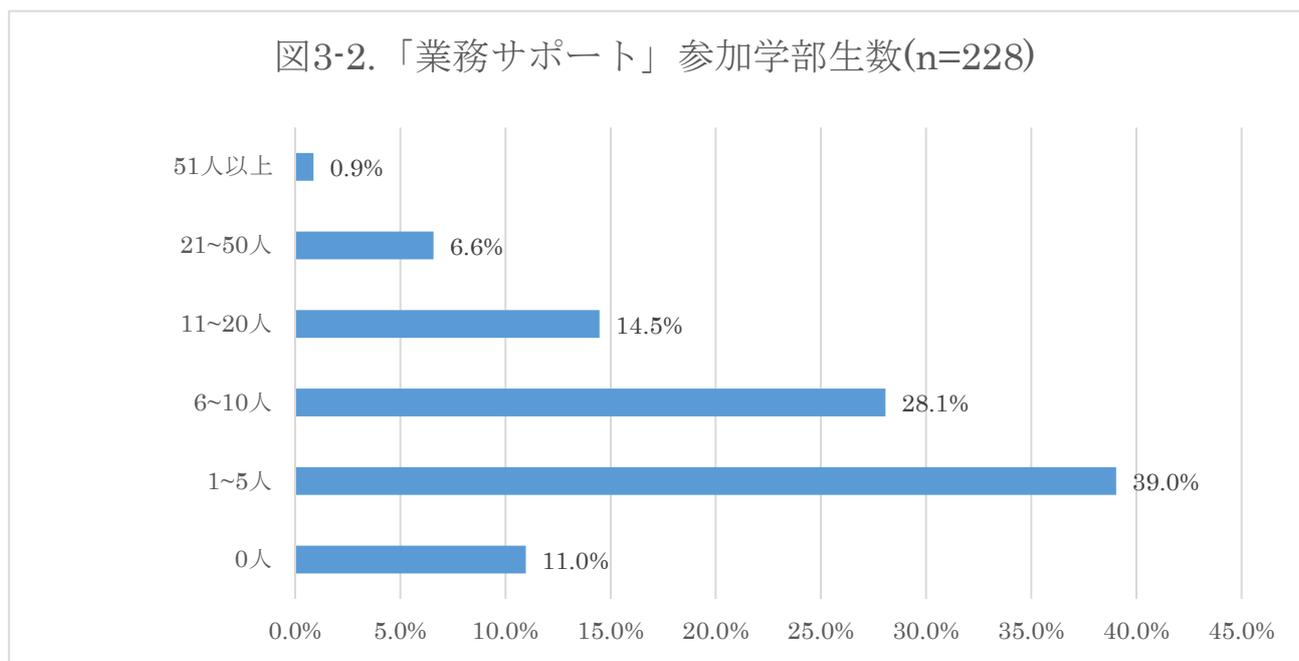
### 2-1. 推移

「業務サポート」を実施している大学にその開始年度を尋ねた。前年度以前に開始している数に対する増加率を確認した結果、2015年度の増加率が6.0%で最も高く、2012年度が5.8%で2番目に高かった。なお、現在活動している館に限った回答結果をまとめたもので、活動を中止した館を含まない集計であるため、減少分は除かれている。(図3-1)



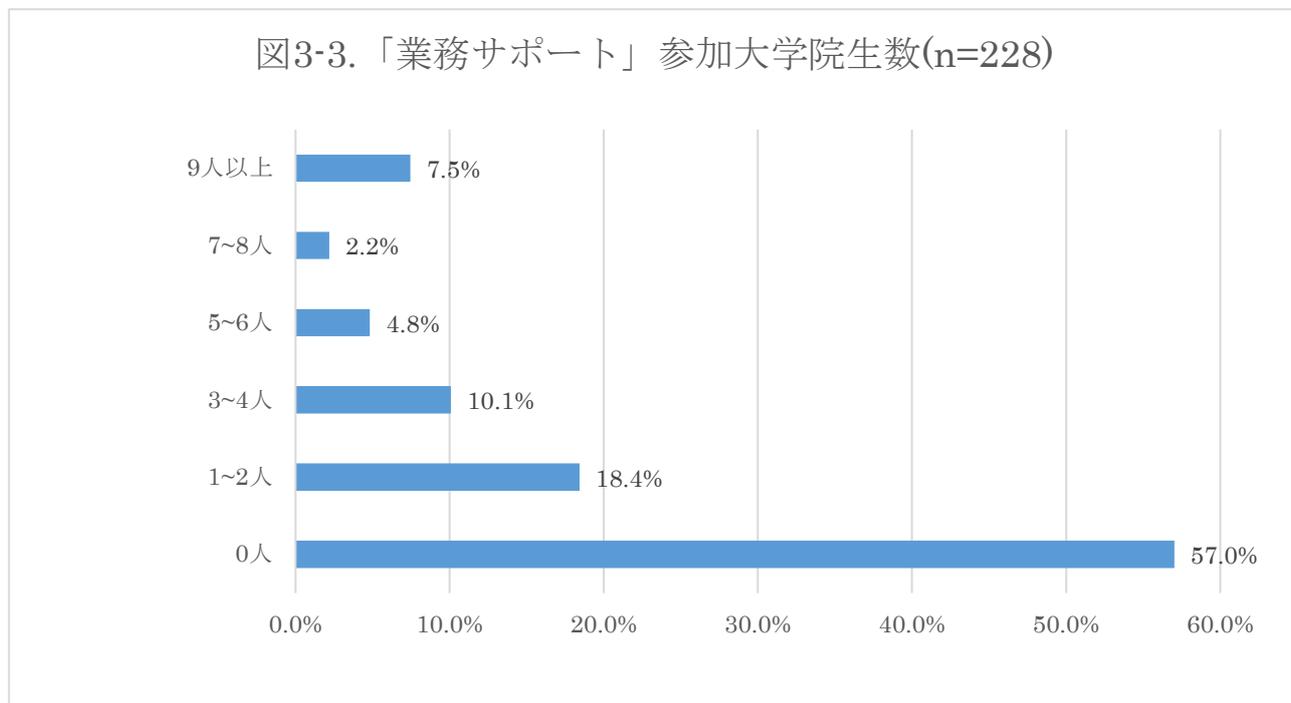
### 2-2. 参加学部生数

「業務サポート」を実施している大学に、活動に参加している学部生の人数を尋ねた。「1~5人」が39.0%で最も高く、「6~10人」が28.1%で2番目に高かった。(図3-2)



### 2-3. 大学院生数

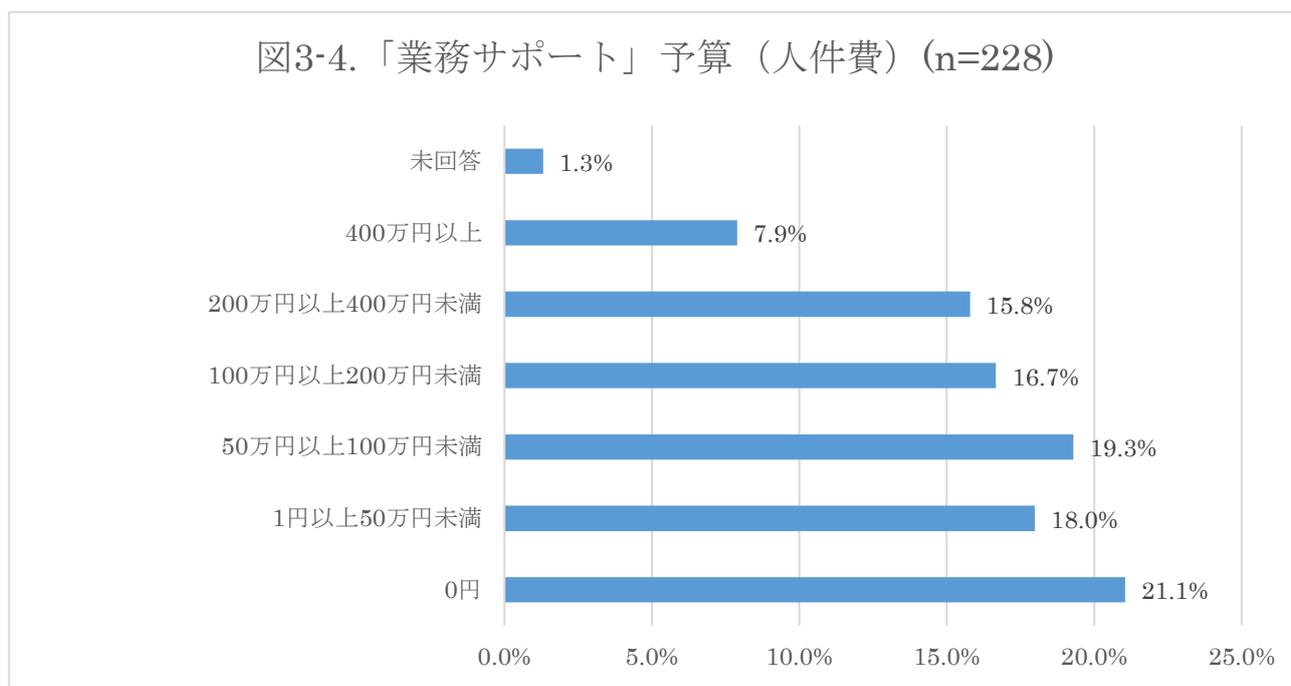
「業務サポート」を実施している大学に、活動に参加している大学院生の人数を尋ねた。「0人」が57.0%で最も高く、「1~2人」が18.4%で2番目に高かった。(図3-3)



### 2-4. 予算（人件費、人件費以外）

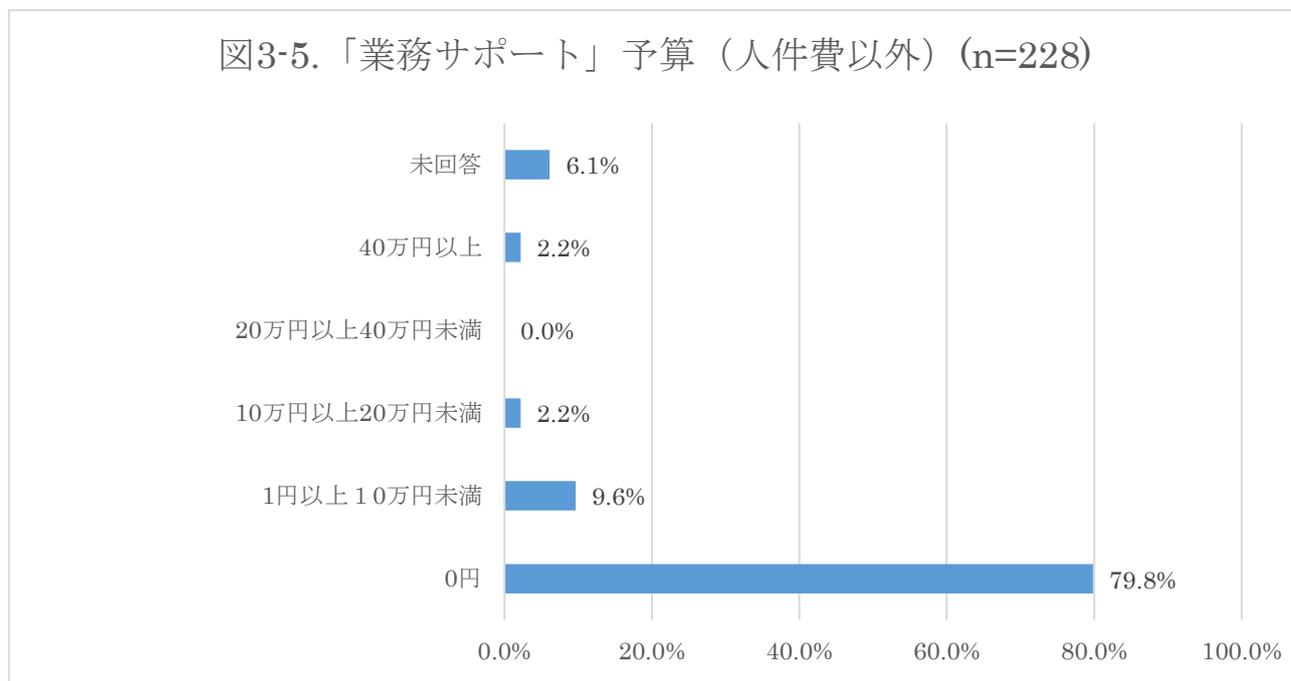
#### 2-4-1. 予算（人件費）

「業務サポート」を実施している大学に、活動のため年間の人件費予算を尋ねた。「0円」が21.1%で最も高く、「50万円以上100万円未満」が19.3%で2番目に高かった。(図3-4)



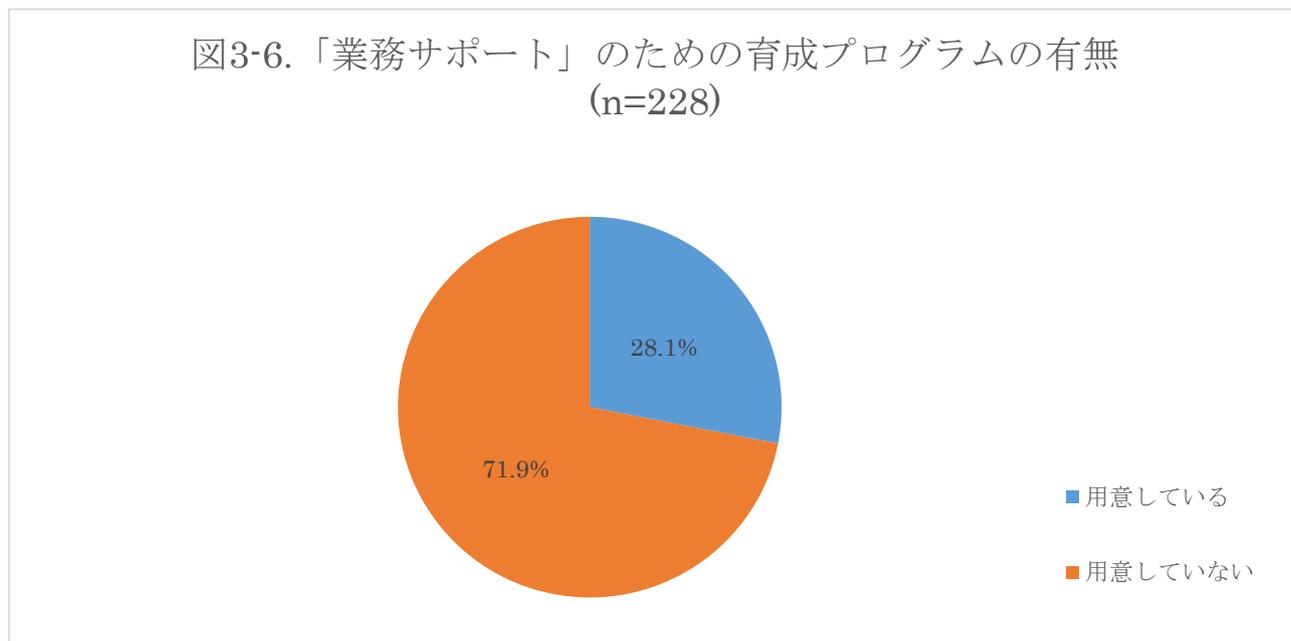
## 2-4-2. 予算（人件費以外）

「業務サポート」を実施している大学に、活動のための人件費以外の年間予算を尋ねた。「0円」が79.8%で最も高く、「1円以上10万円未満」が9.6%で2番目に高かった。（図3-5）



## 2-5. 育成プログラムの有無

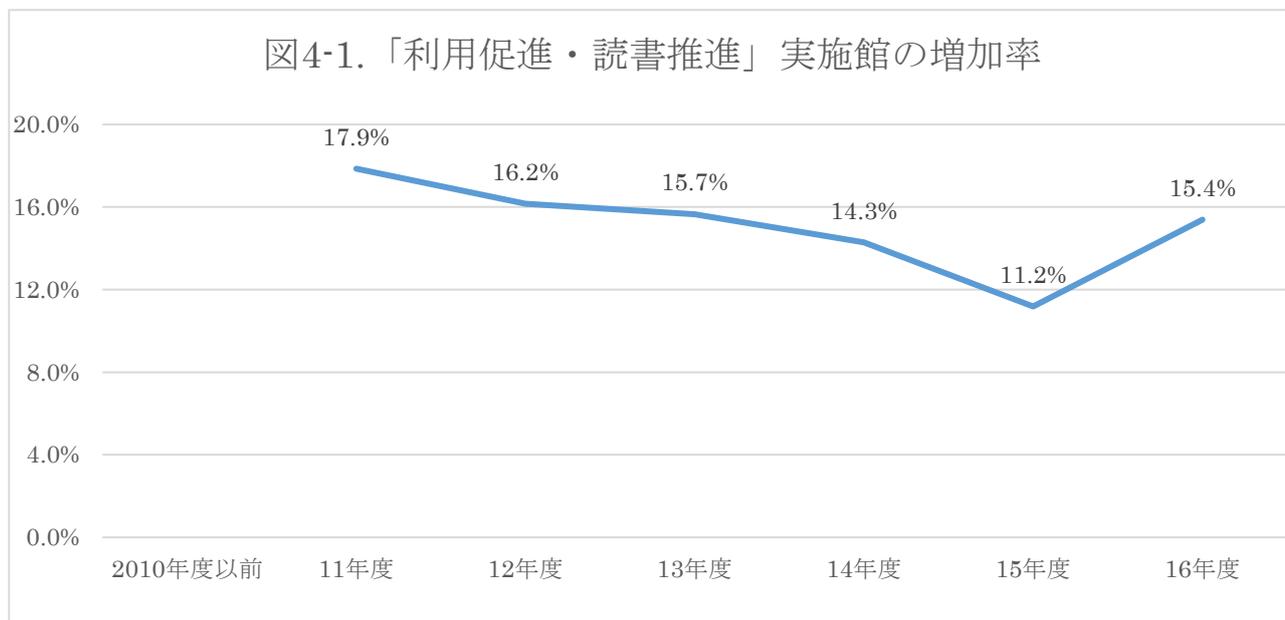
「業務サポート」を実施している大学に、学生を育成するためのプログラムの有無を尋ねた。71.9%がプログラムを用意しておらず、用意している大学は28.1%であった。（図3-6）



### 3. 「利用促進・読書推進」について

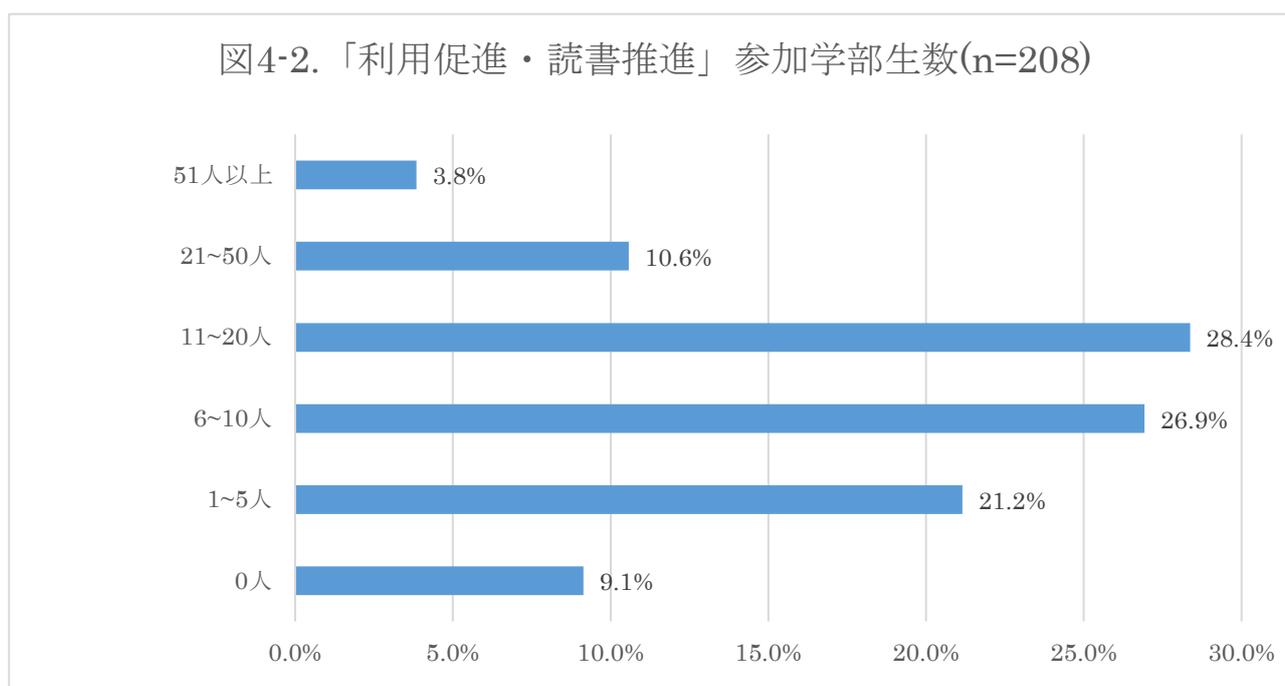
#### 3-1. 推移

「利用促進・読書推進」を実施している大学にその開始年度を尋ねた。前年度以前に開始している数に対しての増加率を確認した結果、2011年度の17.9%から2015年度の11.2%にかけては減少傾向であったが、2016年度は15.4%となり増加した。なお、現在活動している館に限った回答結果をまとめたもので、活動を中止した館を含まない集計であるため、減少分は除かれている。(図4-1)



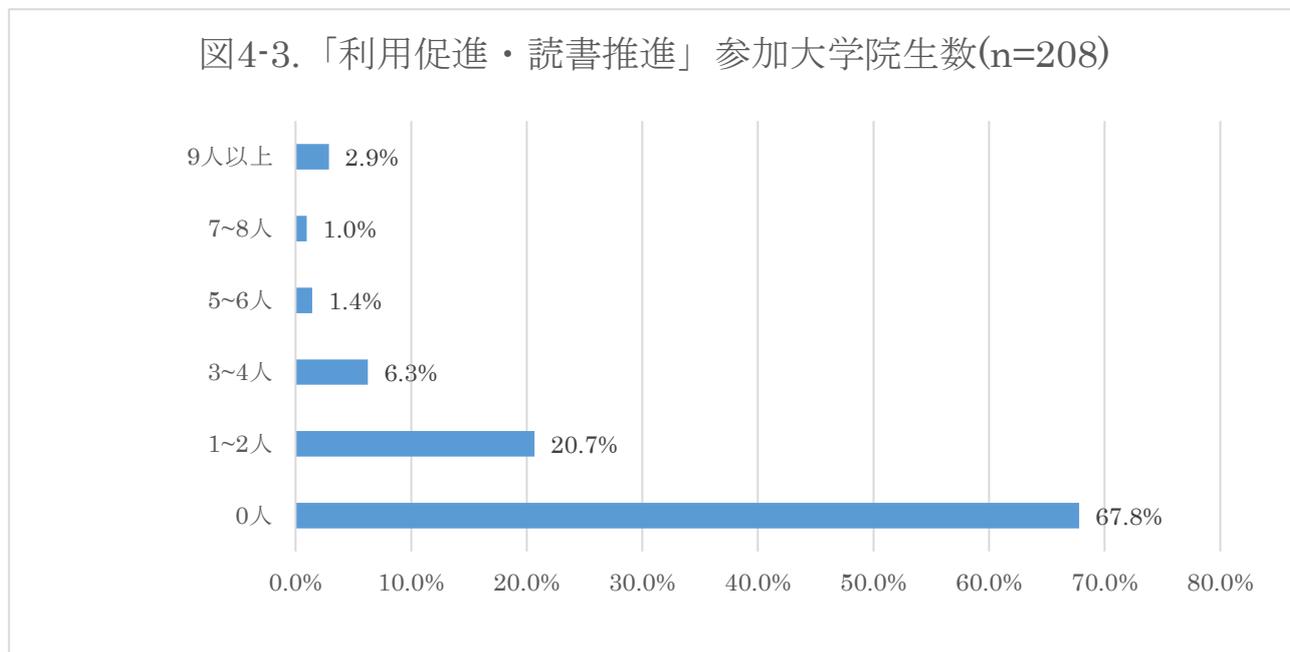
#### 3-2. 参加学部生人数

「利用促進・読書推進」を実施している大学に、活動に参加している学部生の人数を尋ねた。「11~20人」が28.4%で最も高く、「6~10人」が26.9%で2番目に高かった。(図4-2)



### 3-3. 参加大学院生数

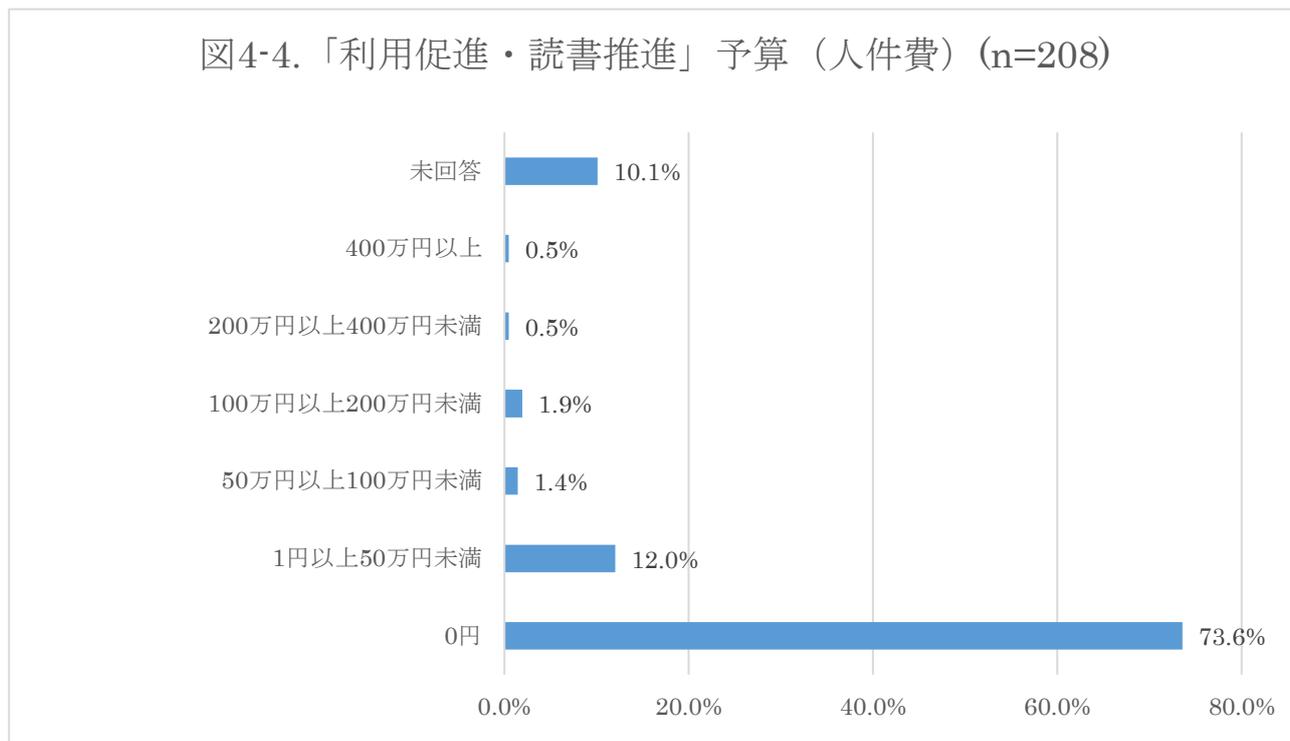
「利用促進・読書推進」を実施している大学に、活動に参加している大学院生の人数を尋ねた。「0人」が67.8%で最も高く、「1~2人」が20.7%で2番目に高かった。(図4-3)



### 3-4. 予算（人件費、人件費以外）

#### 3-4-1. 予算（人件費）

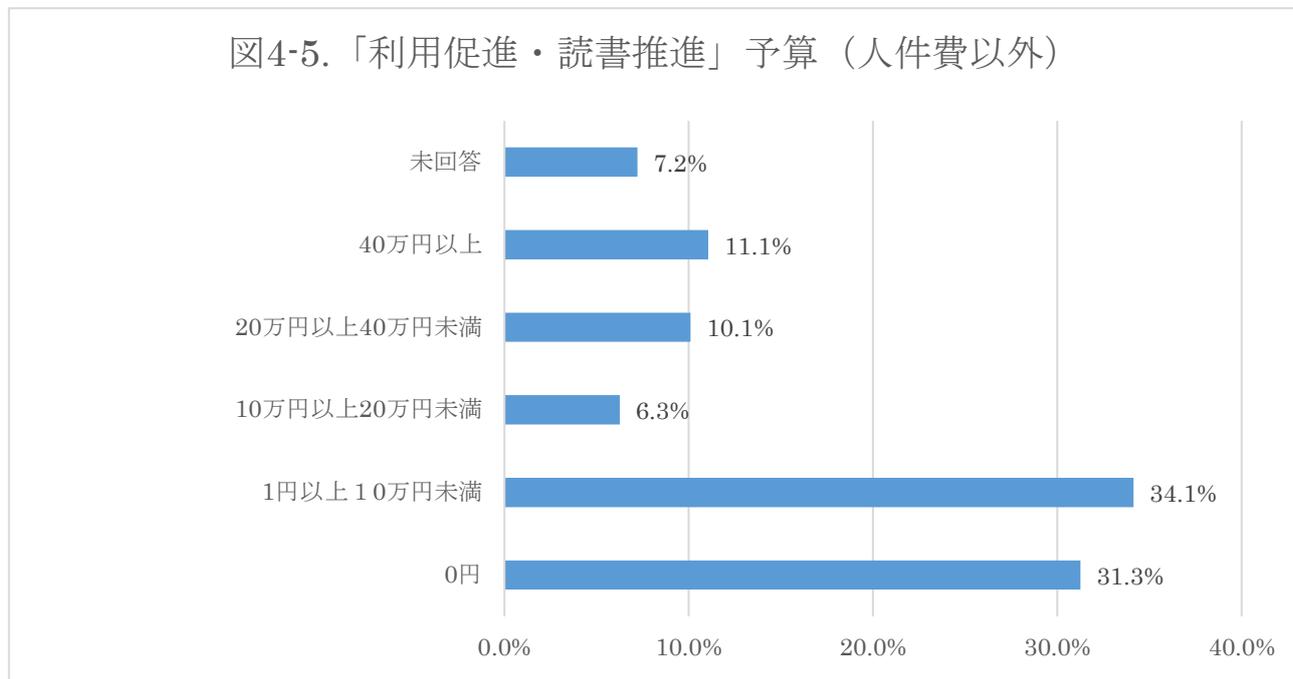
「利用促進・読書推進」を実施している大学に、活動のため年間の人件費予算を尋ねた。「0円」が73.6%で最も高く、「1円以上50万円未満」が12.0%で2番目に高かった。(図4-4)



### 3-4-2. 予算（人件費以外）

「利用促進・読書推進」を実施している大学に、活動のための人件費以外の年間予算を尋ねた。「1円以上10万円未満」が34.1%で最も高く、「0円」が31.3%で2番目に高かった。（図4-5）

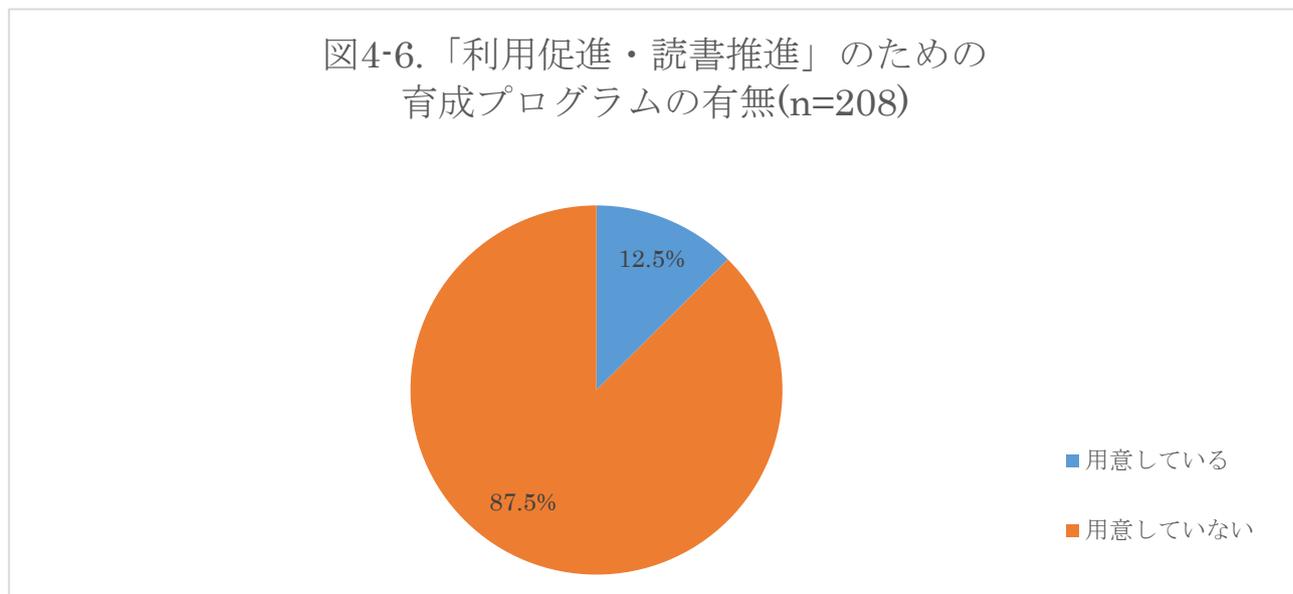
図4-5. 「利用促進・読書推進」予算（人件費以外）



### 3-5. 育成プログラムの有無

「利用促進・読書推進」を実施している大学に、学生を育成するためのプログラムの有無を尋ねた。87.5%の大学がプログラムを用意しておらず、用意している大学は12.5%であった。（図4-6）

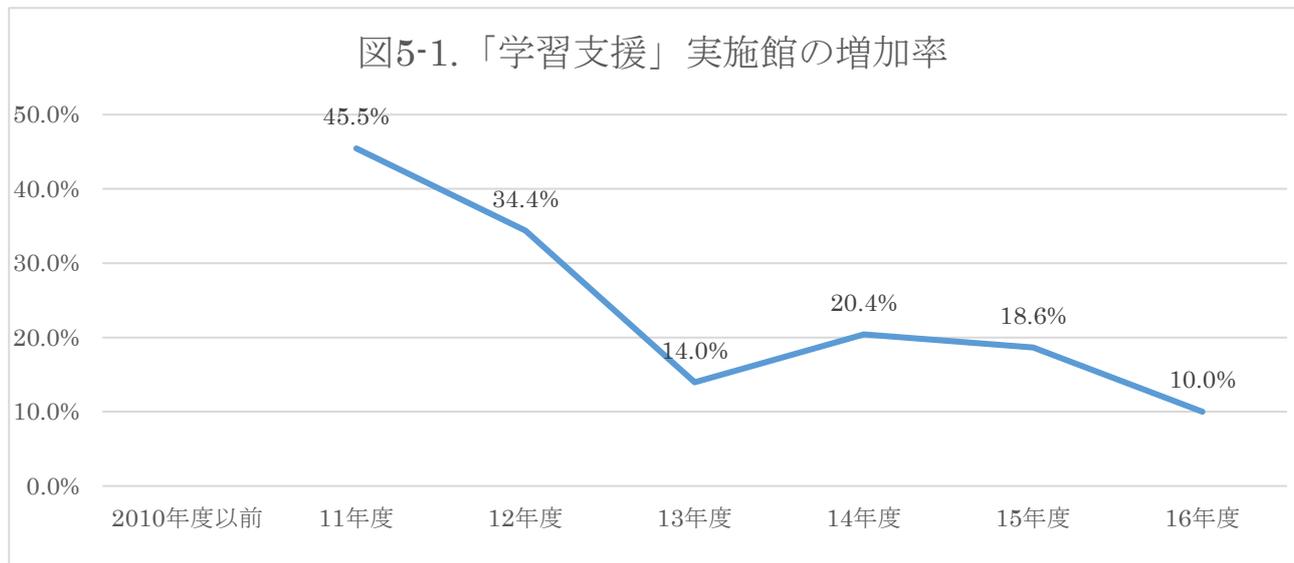
図4-6. 「利用促進・読書推進」のための育成プログラムの有無(n=208)



#### 4. 「学習支援」について

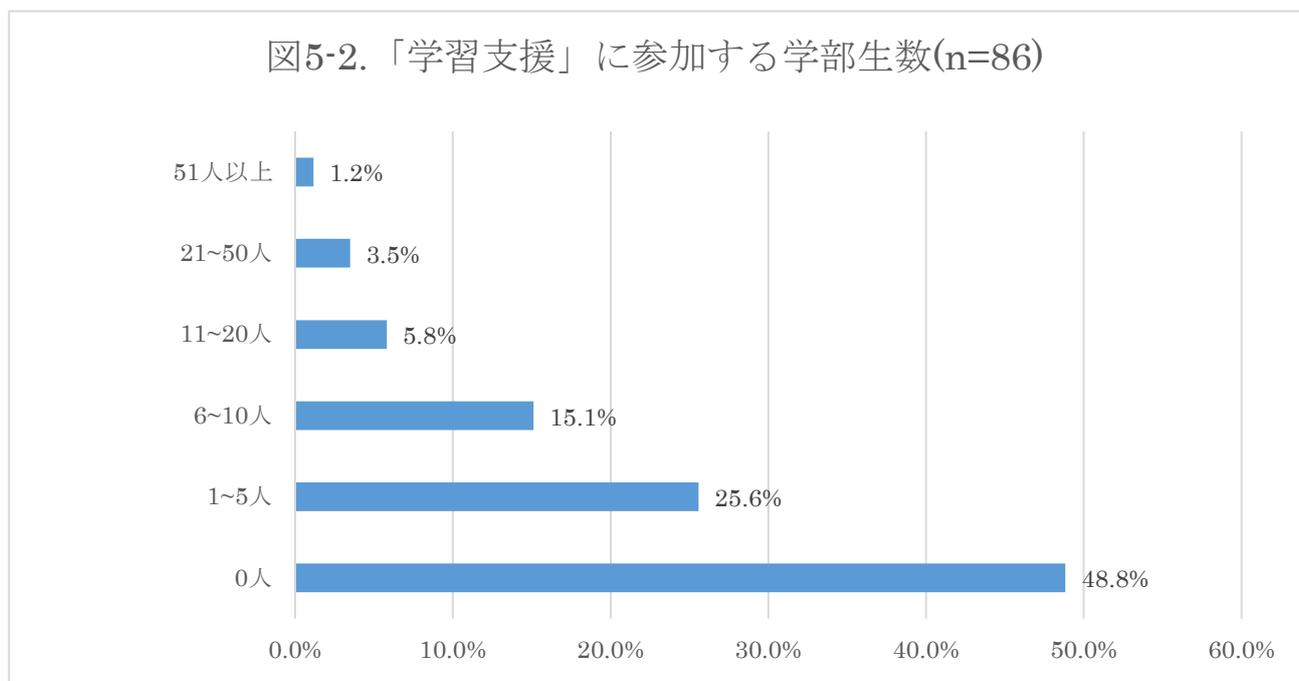
##### 4-1. 推移

「学習支援」を実施している大学にその開始年度を尋ねた。前年度以前に開始している数に対しての増加率を確認した結果、2011年度の増加率が45.5%で最も高く、2012年度が34.4%で2番目に高かった。なお、現在活動している館に限った回答結果をまとめたもので、活動を中止した館を含まない集計であるため、減少分は除かれている。(図5-1)



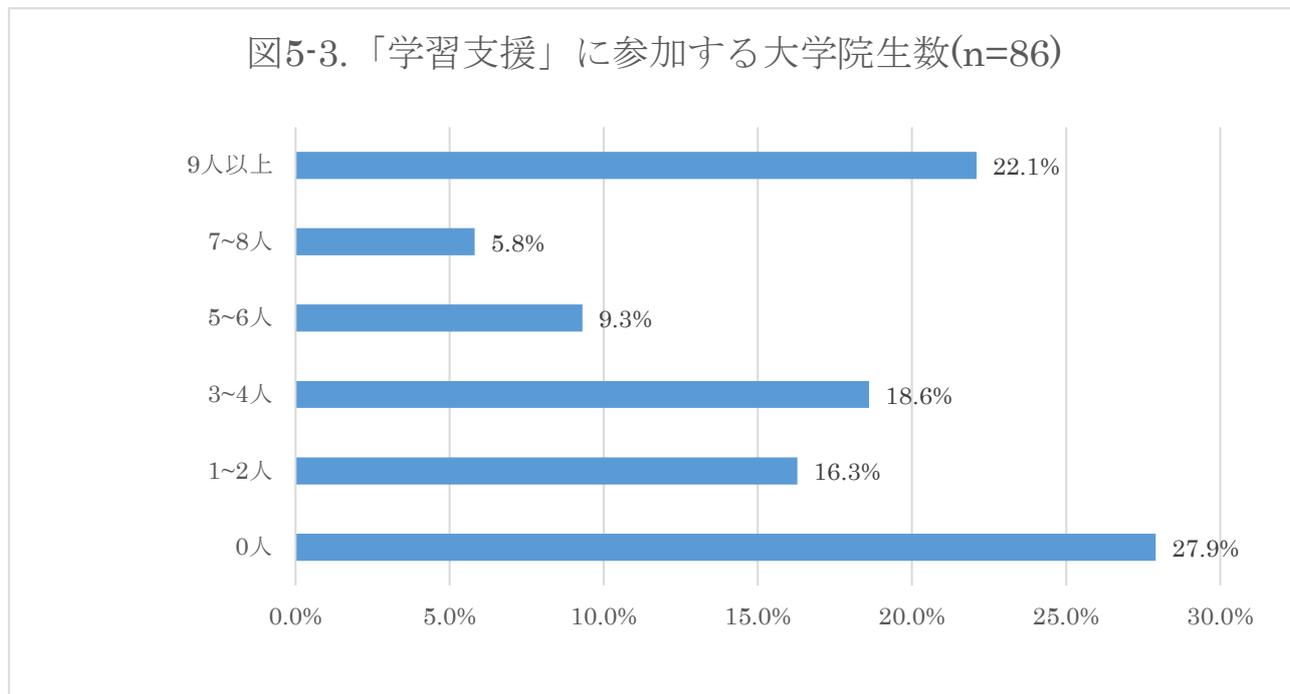
##### 4-2. 参加学部生数

「学習支援」を実施している大学に、活動に参加している学部生の人数を尋ねた。「0人」が48.8%で最も高く、「1~5人」が25.6%で2番目に高かった。(図5-2)



#### 4-3. 参加大学院生数

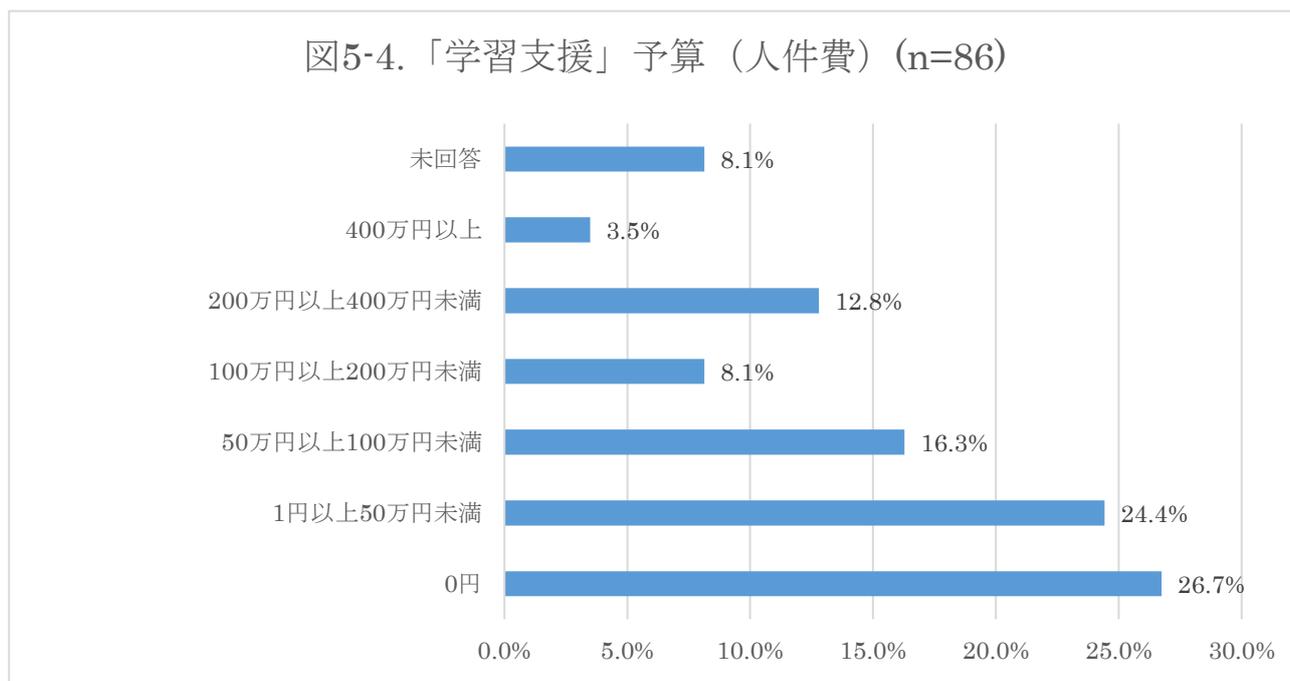
「学習支援」を実施している大学に、活動に参加している大学院生の人数を尋ねた。「0人」が27.9%で最も高く、「9人以上」が22.1%で2番目に高かった。(図5-3)



#### 4-4. 予算（人件費、人件費以外）

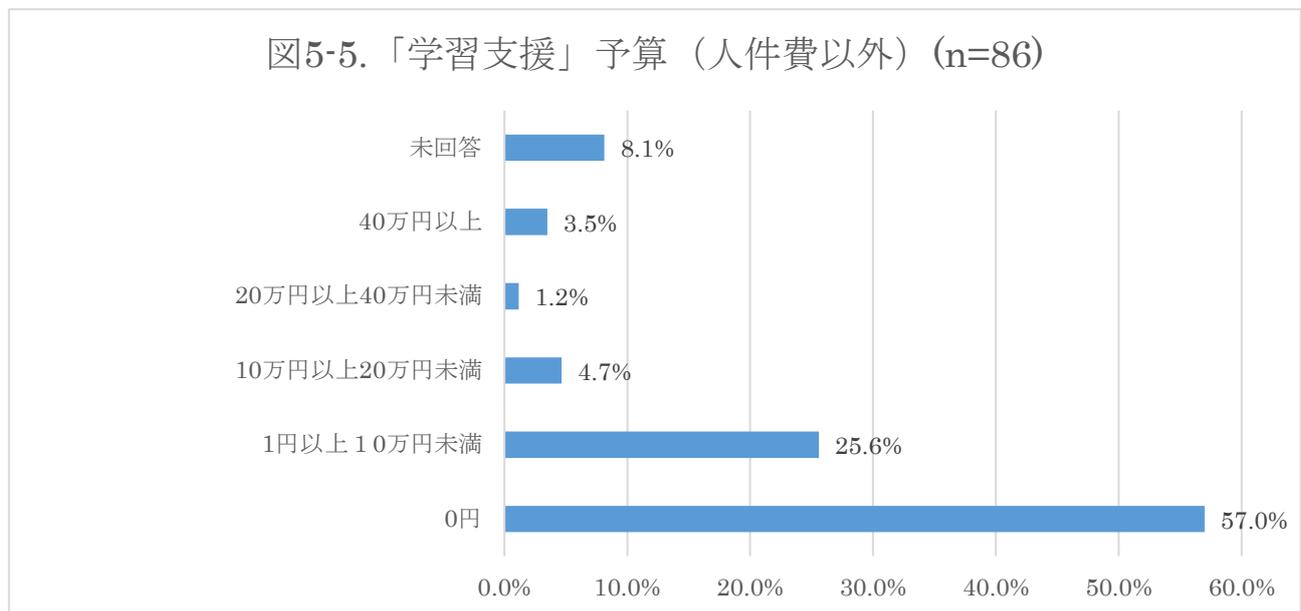
##### 4-4-1. 予算（人件費）

「学習支援」を実施している大学に、活動のため年間の人件費予算を尋ねた。「0円」が26.7%で最も高く、「1円以上50万円」が24.4%で2番目に高かった。(図5-4)



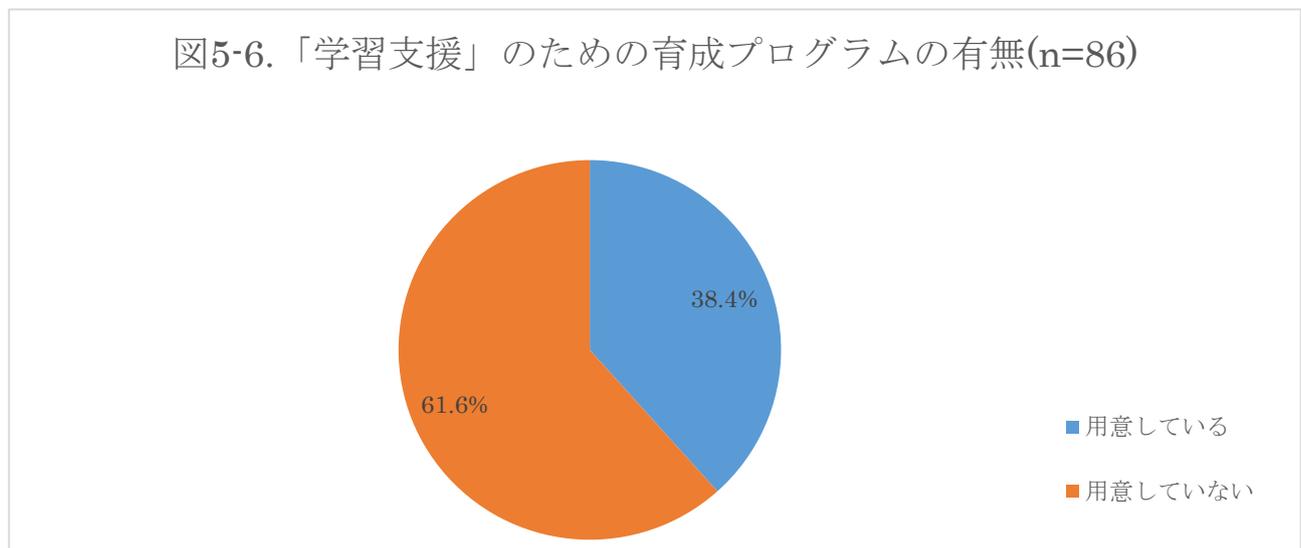
#### 4-4-2. 予算（人件費以外）

「学習支援」を実施している大学に、活動のための人件費以外の年間予算を尋ねた。「0円未満」が57.0%で最も高く、「1円以上10万円未満」が25.6%で2番目に高かった。（図5-5）



#### 4-5. 育成プログラムの有無

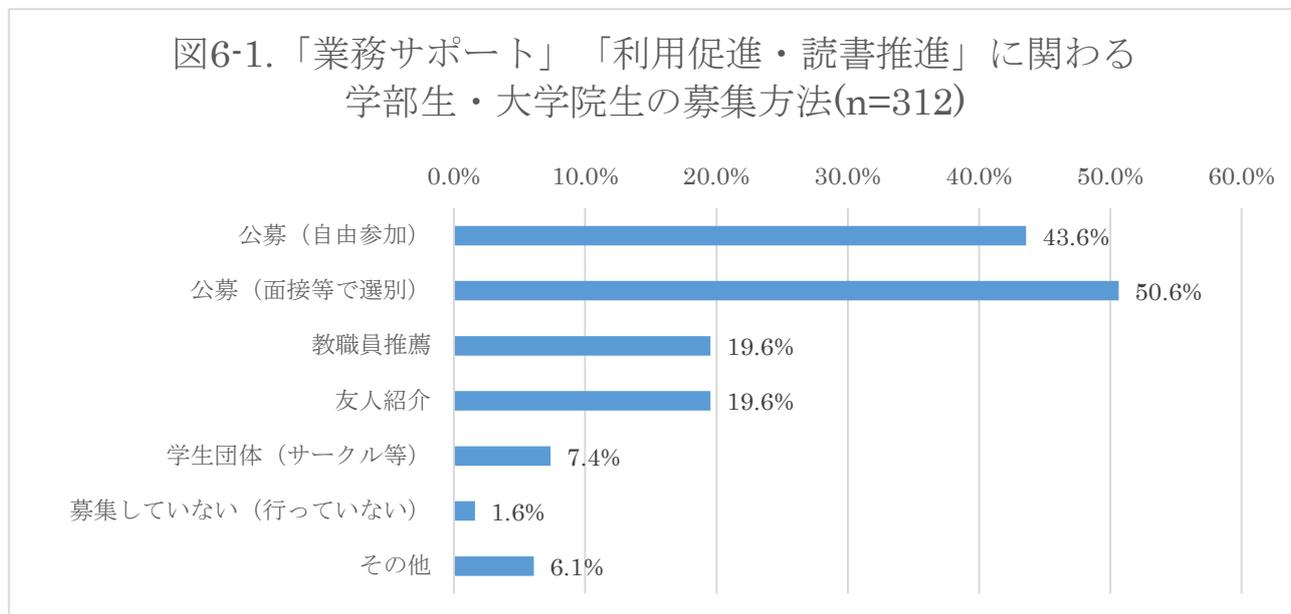
「学習支援」を実施している大学に、学生を育成するためのプログラムの有無を尋ねた。61.6%の大学がプログラムを用意しておらず、用意している大学は38.4%であった。（図5-6）



## 5. 募集方法について

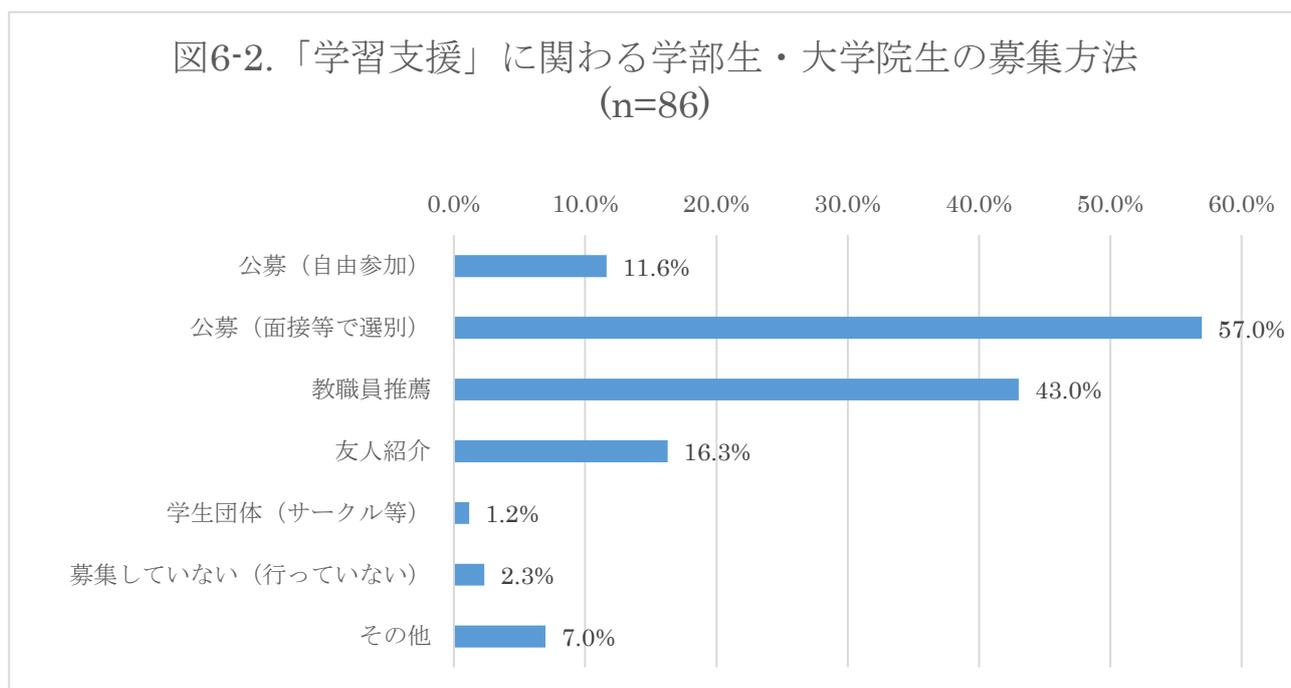
### 5-1. 「業務サポート」「利用促進・読書推進」に関わる学部生・大学院生

「業務サポート」か「利用促進・読書推進」のどちらかを実施している大学に、学部生、大学院生の募集方法を尋ねた（複数回答可）。「公募（面接等で選抜）」が50.6%で最も多く、「公募（自由参加）」が43.6%で2番目に高かった。「教職員推薦」と「友人紹介」は19.6%であった。（図6-1）



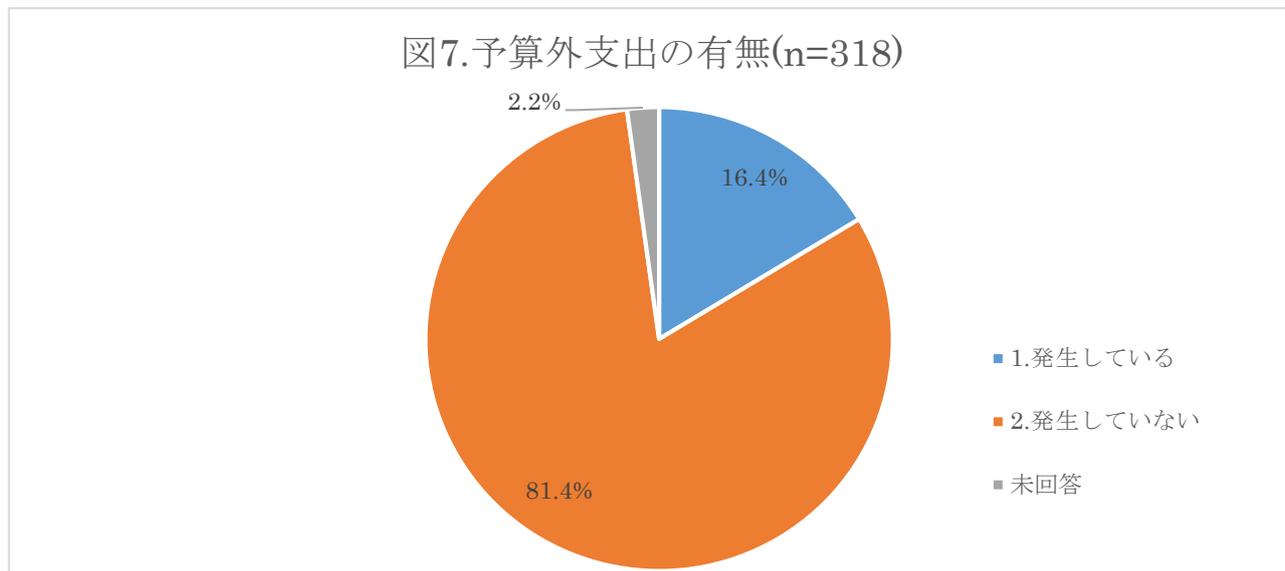
### 5-2. 「学習支援」に関わる学部生・大学院生

「学習支援」を実施している大学に、学部生、大学院生の募集方法を尋ねた（複数回答可）。「公募（面接等で選抜）」が50.6%で最も多く、「教職員推薦」が43.0%で2番目に高かった。「友人紹介」が16.3%で3番目に高かった。（図6-2）



## 6. 予算外支出の有無について

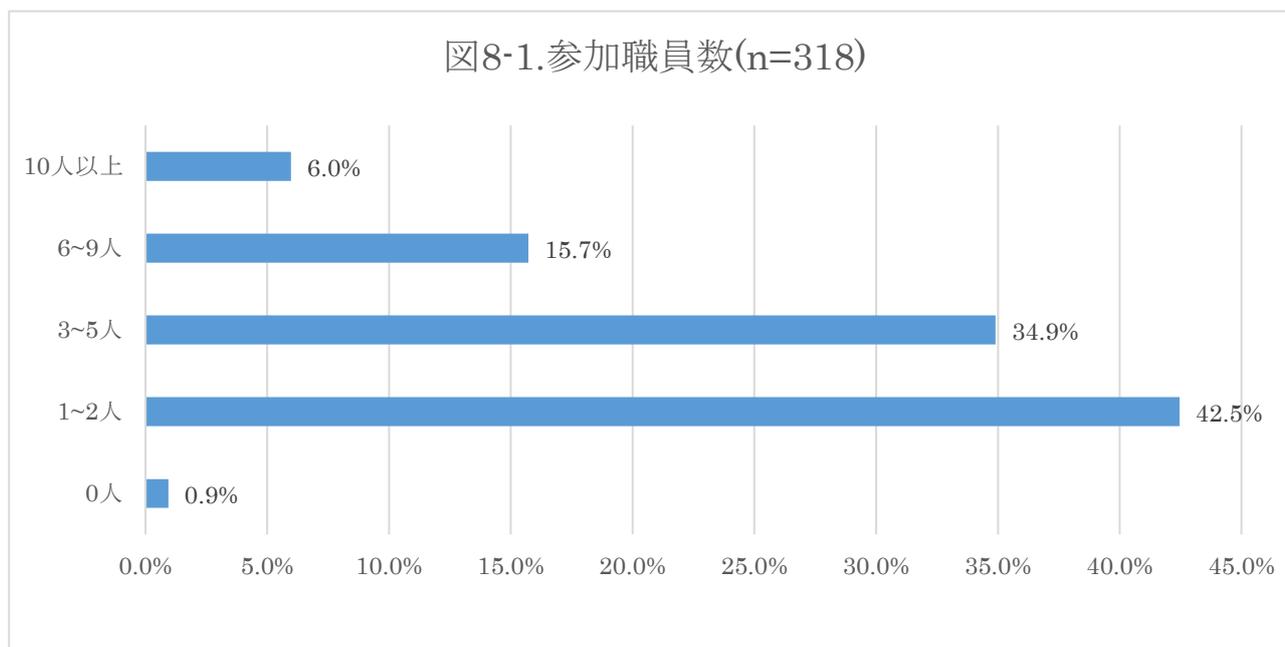
「業務サポート」「利用促進・読書推進」「学習支援」のいずれかを実施している大学に、予算確保していない支出の発生有無を尋ねた。81.4%の大学では発生しておらず、発生している大学は16.4%であった。(図7)



## 7. 教職員の参加について

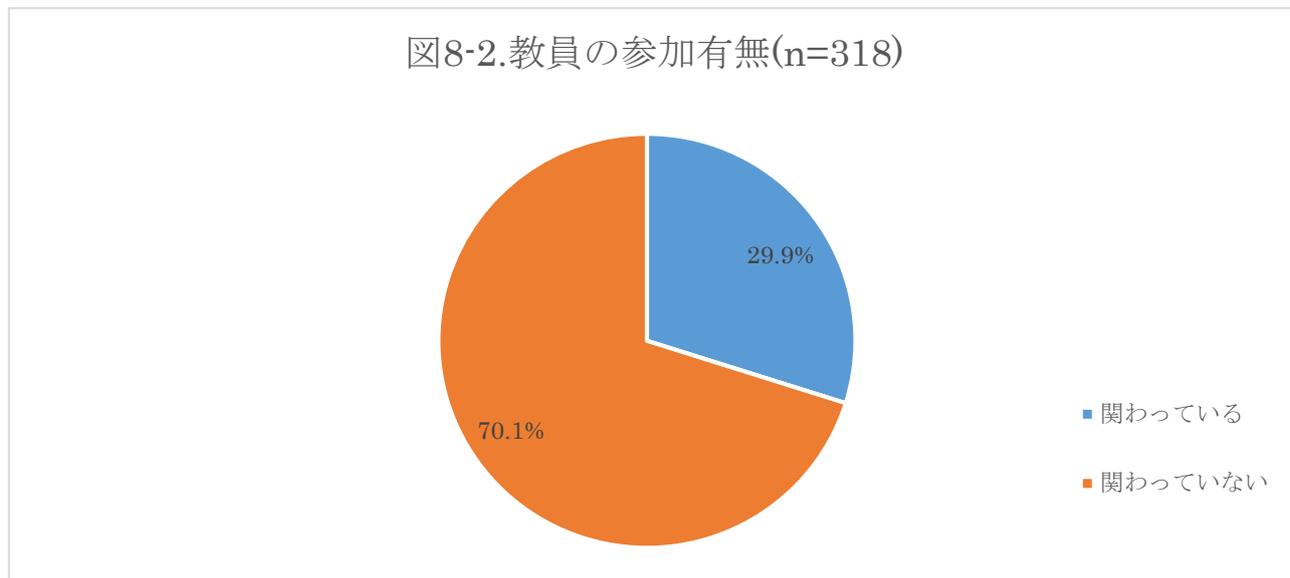
### 7-1. 参加職員数

「業務サポート」「利用促進・読書推進」「学習支援」のいずれかを実施している大学に、参加している職員の人数を尋ねた。「1~2人」が42.5%で最も多く、「3~5人」が34.9%で2番目に高かった。(図8-1)



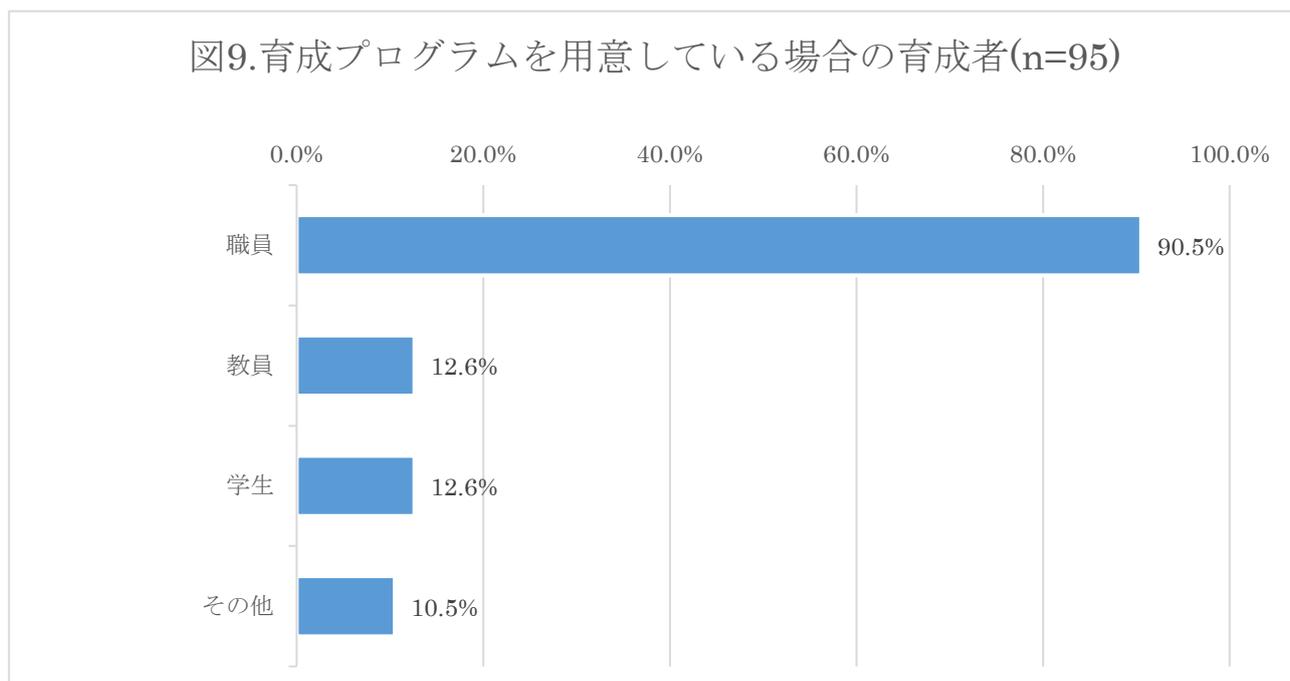
## 7-2. 教員の参加有無

「業務サポート」「利用促進・読書推進」「学習支援」のいずれかを実施している大学に、教員の関わりの有無を尋ねた。70.1%の大学では教員が関わっておらず、関わっている大学は29.9%であった。(図8-2)



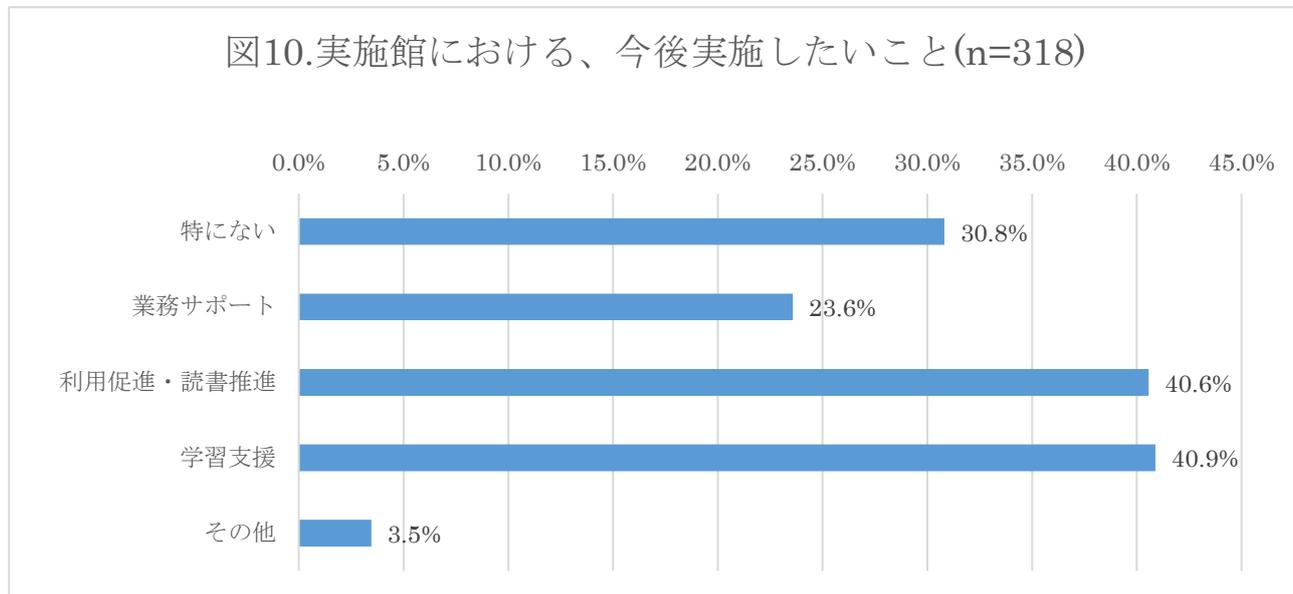
## 8. 育成プログラムを用意している場合の育成者について

「業務サポート」「利用促進・読書推進」「学習支援」のいずれかを実施している中で、学部生、大学院生の育成プログラムを用意している大学に、育成の担当者を尋ねた。「職員」が90.5%で最も多く、「教員」と「学生」がともに12.6%であった。(図9)



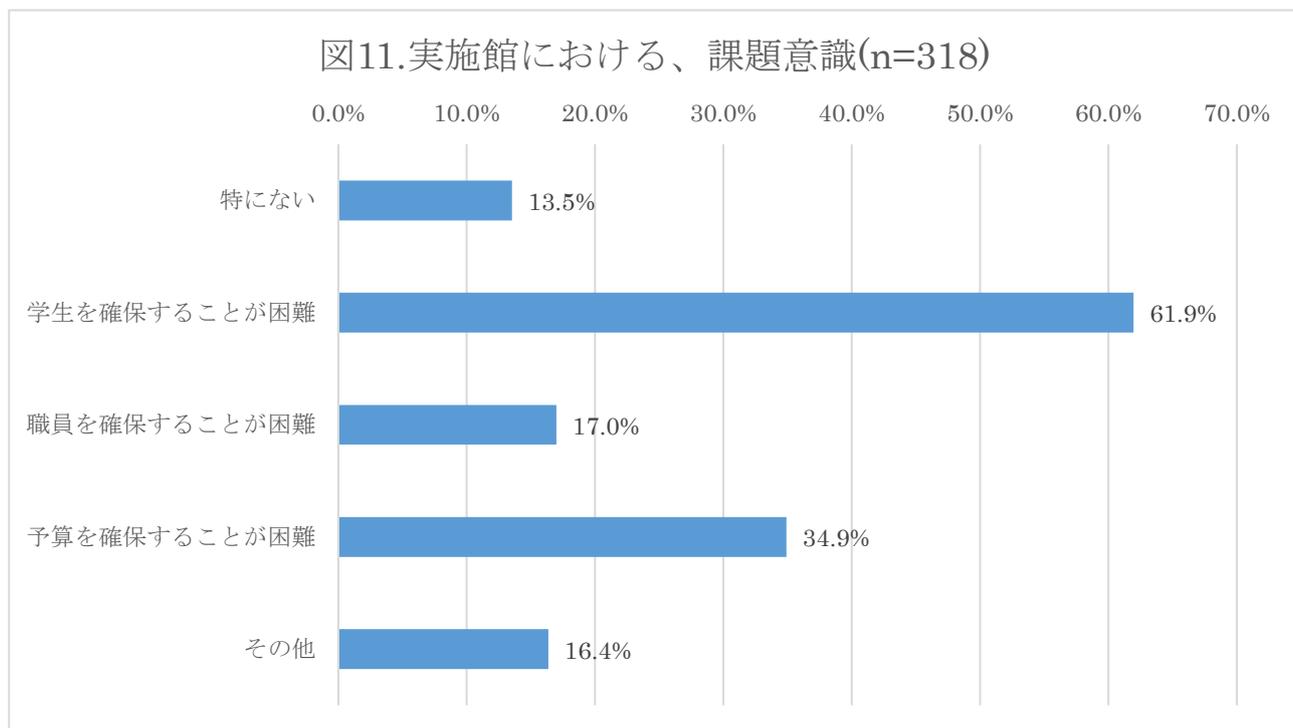
## 9. 今後の実施予定について

「業務サポート」「利用促進・読書推進」「学習支援」のいずれかを実施している大学に、今後実施したいことがあるかを尋ねた（複数回答可）。「学習支援」が40.9%で最も多く、「利用促進・読書推進」が40.6%で2番目に多かった。（図10）



## 10. 課題意識について

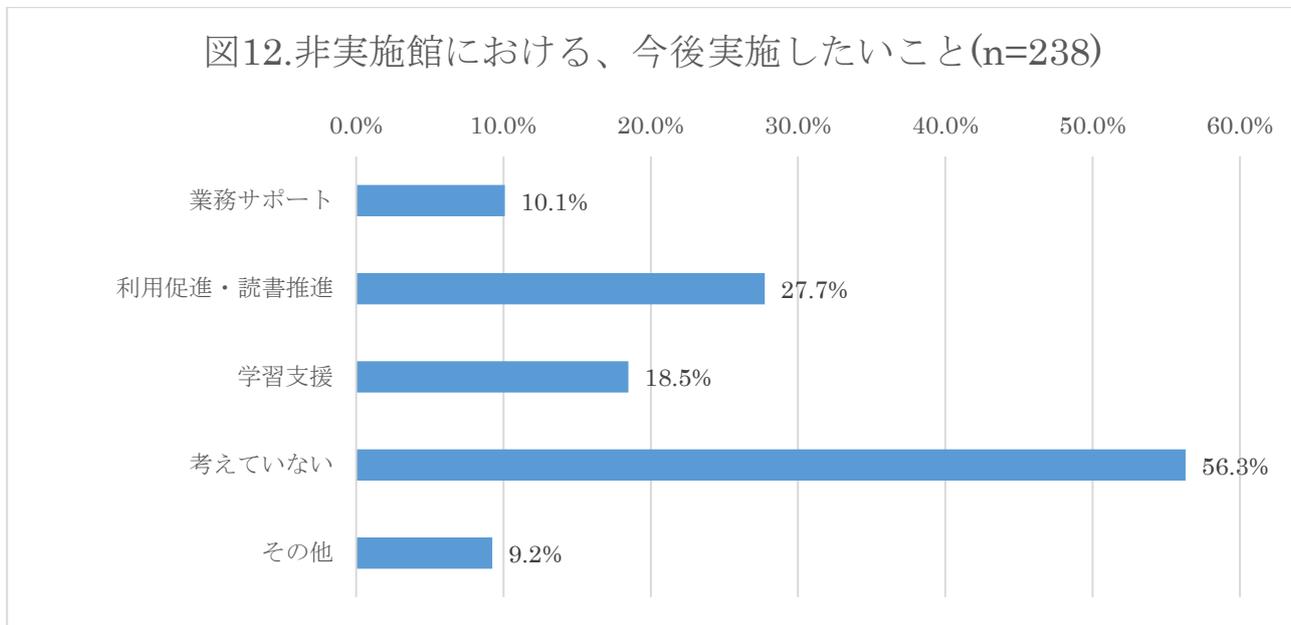
「業務サポート」「利用促進・読書推進」「学習支援」のいずれかを実施している大学に、課題と考えていることを尋ねた（複数回答可）。「学生を確保することが困難」が61.9%で最も多く、「予算を確保することが困難」が34.9%で2番目に多かった。（図11）



### III. 学生協働非実施館

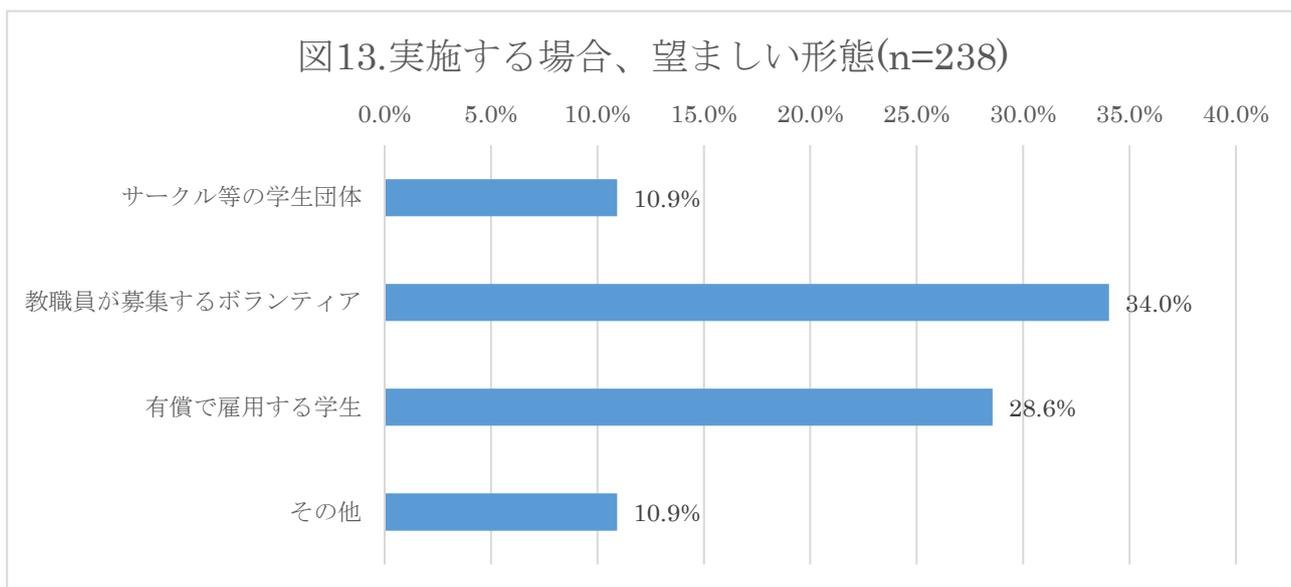
#### 1. 今後の実施予定について

「業務サポート」「利用促進・読書推進」「学習支援」のいずれも実施していない大学に、今後実施したいことがあるかを尋ねた（複数回答可）。「考えていない」が 56.3%で最も多く、「利用促進・読書推進」が 40.6%で 2 番目に多かった。（図 12）



#### 2. 実施する場合の形態について

「業務サポート」「利用促進・読書推進」「学習支援」のいずれも実施していない大学に、活動を実施する場合の望ましい形態を尋ねた（複数回答可）。「教職員が募集するボランティア」が 34.0%で最も多く、「有償で雇用する学生」が 28.6%で 2 番目に多かった。（図 13）



### 3. 課題意識について

「業務サポート」「利用促進・読書推進」「学習支援」のいずれも実施していない大学に、活動を実施するにあたっての課題意識を尋ねた(複数回答可)。「学生を確保することが困難」が54.6%で最も多く、「予算を確保することが困難」が42.9%で2番目に多かった。(図14)

